

高松学習館運営協議会（令和3年12月）会議録概要

開催日時 令和3年12月22日（水曜日）午前9時30分～午前11時

開催場所 高松学習館 第2教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学常勤教授）

小林理哉（立川市社会福祉協議会）

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

橋本 登（立川市市民交流大学推進委員会）

小倉亮一（立川市市民交流大学推進委員会）

難波敦子（学習館利用団体）

結城まり子（学習館利用団体）

委任状提出

栗原政子（学習館利用団体）

欠席 3名

[事務局] 石井孝（高松学習館係長）、富田瑞代（高松学習館市民囑託）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

議事

1. 会長あいさつ

おはようございます。例年より天候に恵まれて暖かいのでいろいろ行事が行われている。一方で、変異株でリバウンドの雰囲気があり公共施設の利用の制限などが危惧される。公共施設の提供できるサービスや会議のあり方などが問われてくるのではないかと思う。

2. 報告事項

・事務局より下記について報告があった。

・机上用のパーテーション(カード・ケース)を10セット購入した。会議や講座で活用する。割れやすいため、団体への貸出しの際には注意が必要となる。

・現在受付中の講座(子どもフラダンス・七草粥・竹のコップ・新春落語会)の申込状況などについて報告があった。

3. 協議事項

(1) 前回議事録（案）について 承認された。

(2) 新春たかまつ落語会(1/15開催)について

48名申込受付済み。感染症対策は今後の感染状況の推移を見ながら検討することになった。状況によっては出演者のマウスシールド着用とソーシャルディスタンスの確保に加え、opp ロールを設置する等の対応を検討する方向。

当日スタッフの確認をした。

司会進行:梅田会長、受付:結城委員、栗原委員、写真撮影:小倉委員

(3) 会議時間帯について

・アンケート回答を受け、今年度の協議会は現状の曜日と時間で開催する方向。

・地域学校コーディネーターの方が協議会に参加しやすい曜日と時間帯に設定した

方がいいのではないかと思う。

- ・仕事や家族の都合もそれぞれある。その都度(毎回)決めるという方法もある。
- ・この協議会を中心に新しいメンバーの方に参加していただくのが筋道。立川市の方向性が見えてこない。運営協議会の行政上の位置づけを根本的に理解すべきだと思う。
- ・錦学習館運営協議会の会長は地域学校コーディネーターをされているので情報交換、連携がとても良くできている。他の学習館と一緒に話をしていくことからスタートしている。
- ・次年度については1/18地域学校協働本部連絡会に石井係長が参加するので、直接話を聞いて1月会議で報告することになった。
- ・学習館運営協議会のあり方について、協議会の本来の目的は何なのか、地域課題を考えていく場であることを改めて認識していく必要があるのではないか。
- ・学社一体と謳う中で、学習館の立ち位置、地域課題を解決していくことに立ち返ることが大切。

(4) その他

- ・生涯学習スタッフ・関係者研修
令和4年1月18日(火)午後2時より 市役所101会議室
参加予定委員の確認をした。(梅田会長、難波副会長、小倉委員)
- ・地域学習館運営協議会交流会
令和4年2月19日(土)午後2時より 市役所302会議室
担当は西砂学習館
1月会議で参加委員を再度確認する。
- ・第6次生涯学習推進計画対比表を小倉委員がリニューアルしてくれた。
中止になった事業は網掛けにするなど、さらにわかりやすく見やすくすることになった。まだできていない項目に取り組んでいけるように行っていく。

4. その他

- ・次回会議日程について確認した。
令和4年1月26日(水)午前9時30分~11時 高松学習館
(2月は休会)

5. 地域課題共有

- ・いろいろな事業の場でお手伝いをする中で様々なことを吸収できてありがたいが、何かもう一つ物足りない気がしている。もう一步踏み込んで、若い世代が興味を持つような企画やコロナ禍でこもりがちで困っているシニア世代が近場で出てこられるような講座があればいいと感じる。
- ・学習館運営協議会は何がゴールで何を検討する場なのか、ぼやけている気がする。各学習館が好きなことをするというだけでなく、第6次生涯学習推進計画を実現するために各学習館の特性や特技が活かされていけばと思う。それから学校コーディネーターの方に入ってもらって子ども達や保護者に伝えてもらうことでネットワークができる。まずはこの協議会のネットワークをさらに強くして必要がある。地域の拠点である学習館で参加者が固定している。以前のように集まるのが難しいので、今までと異なったやり方で交流していけるよう

に工夫が必要。地域とあまり関わりたくないという方が多いが、高齢になって
独り暮らしになると寂しくなりがち。でも地域のことに参加しづらい。いつで
もふらっと立ち寄れることができるような居場所が点在すると思う。商
店街や空き家、施設の空き時間のスペースを活用できる。上手くつながってい
くと広がっていく。フードバンクで企業から寄付はたくさんいただいているが、
置き場所がなくて困っている。配る仕組みがまだ整っていない状況。年末年始
の支援袋の準備はしている。

- ・個人的に大学院入学受験した。人生相談を受ける中でもっと勉強したいと思っ
た。どこもそうだが、会の目的は何か、原点に戻っていくことが大事だと思う。
この協議会も市民交流大学も何のためにあるのか、進展していくために原点を
再認識する必要がある。
- ・市民リーダー会は物事がスムーズに進められている。
- ・市民リーダー会では、皆がやることだから適材適所をお願いしている。学習館
の役割について改めて考えさせられた。地域の課題についてやる場所、課題は
見えないことが多い。自治会、地域でもコロナ禍で小さな不満がたくさん溜ま
っている人が多い中、楽しいことができるようにしたいと思う。
- ・自治会連合会栄町支部で健康フェアを従来と異なる形で実施した「緑道ウォー
キング」に100人の参加があった。役員は大変な中に参加できる場所づくりに
取り組んだ。外に出たいというニーズがすごくある。防災訓練はオンラインで
実施した。ホームページのリニューアル、オンライン会議など新しいことに挑
戦できる伸びしろがある。枠の中に入っているとできない。
- ・先月緊急事態宣言の解除以降、様々な会議や事業に参加している。人がいっぱい
出ているという印象がある。学習館のあり方を各自が責務として再認識する
ことが大切。各団体の情報交換が大切で刺激にもなる。各種団体をどのように
後方支援できるか、学習館は単なる貸館ではなく、どういうふうにコーディネ
ートができるのかというポジショニングができて、学習館の活性化、地域の活
性化につながる。個々の団体の既得権を主張するだけでは協調性がなくなる。
国の方針により、地域コミュニティと学校がどのように子ども達をどのように
育てるか、そこに高齢者が参加することでさらに地域が活性化していく。
行政計画であり社会教育計画である。その中で地域学習館は地域の拠点として
社会教育、生涯学習教育をどのように推進するか、だと思う。生涯審は何のた
めの生涯審なのか、行政のためではなく市民のための教育計画であることを理
解していただきたい。計画だけ作るのではなく具現化していけるように。行政
ができる支援は人材(財)育成と予算的な面になる。

以上